



怪談は明かりを消し、うす暗い中で行われました。モニターに映し出される光景が話を引き立てます。

角館
三二劇場

夏の暑さをひんやりさせる少しこわい話
夏の特別編「怪談しない会？」

8月18日、角館庁舎で新潮社記念文学館朗読ボランティア「やさいの花」の皆さんによる、角館三二劇場夏の特別編「怪談しない会？」が開催されました。

公演前に訪れた方々からは、以前学習資料館で行われていた怪談イベントが再び聞けるのを楽しみにしていた、怪談話に興味があったなどたくさん声をいただきました。

怪談の演目は、秋田の話や実験など11作品を披露。朗



訪れた方は、息をのみながら怪談話を聞いていました。

読ボランティアの皆さんは読む声の強弱や身振り手振りを交えた朗読で観客を話の世界に引き込みました。公演終了後、訪れた観客に一番印象に残った怪談話を伺うと「実体験談の祖母の話が印象に残った。ほかの話は霊体的なのに対し、実体で見たということなのでゾクッとした」と話してくれました。

また、今回一般参加で怪談を披露してくれた大澤善樹さんは「朗読ボランティアの皆さんに習って座って読むだけでなく、身振り手振りを加えて工夫して読んだ。人前で読むのは緊張した」と話してくれました。

3匹の獅子、勇壮に——角館の伝統芸能 白岩のささら舞



雲巖寺の境内で披露されたささら舞。

8月15日、雲巖寺で角館の伝統芸能「白岩のささら舞」が披露されました。送り盆行事の一つとして祖霊と神仏供養、五穀豊穡を祈り行われています。

例年はお盆の間、白岩地区の家々を回り披露するささら舞。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、白岩神明社と雲巖寺のみで行われ、白岩若者会（草薙紀聡会長）が白岩ささらの供養舞を披露しました。

同会の草薙会長は「今年は例年通り開催したかった。披露する回数こそ少ないが、新型コロナウイルス感染症の収束も願いささらをスル（舞う）ことができた」と話しました。

かがり火からつなぐ聖火に思いを込めて
東京2020パラリンピック聖火採火式



①白岩ささらの奉納舞で清められたかがり火から採火しました。
②火は児童・生徒と保護者が順番につなぎました。

8月15日、雲巖寺の境内で東京2020パラリンピック聖火の採火式が行われました。

採火式には大曲支援学校せんぼく校の小・中学部・高等部の児童・生徒とその保護者計12人が参加。白岩のささら舞により清められたかがり火から採火、「仙北市歴史文化の火」と命名したその火を参加者が順番につなぎ、最後は門脇市長がランタンに火を灯しました。

ランタンに収められた聖火は、翌



ランタンに収められた聖火。

日に秋田市で行われた集火式で秋田県内全市町村で採火された聖火とともに一つになり、開会式が行われた東京へと運ばれました。

みんなで広げよう
シトラスリボンプロジェクト



左から門脇市長、角館町赤十字奉仕団の佐々木加奈子副委員長、同奉仕団の赤川和子委員長、仙北市社会福祉協議会角館支所の山信田律子さん、黒沢龍二市議会議長。

8月23日、コロナ差別をなくすため、角館町赤十字奉仕団から市議会議員や議会参与職員へ「シトラスリボン」を寄贈いただきました。

シトラスリボンプロジェクトは、誰もが新型コロナウイルス感染症に感染するリスクがある中、感染しても地域のなかで笑顔の暮らしを取り戻せることの大切さを伝え、感染された方や医療従事者が、それぞれの暮らしの場所で「ただいま「おかえり」と受け入れられる雰囲気をつくり、思いやりがあり暮らしやすい社会を目指すため、愛媛県から始まった活動です。

同団で代表を務める赤川和子さんは「いつでもで感染するかわからない中、まずは自分たちから受け入れる体制を整えていき、そして全地域の方の力を借りて仙北市を支えなければならぬ」と話しました。

仙北市社会福祉協議会で角館町赤十字奉仕団の皆さんが制作したリボンをお配りしています。

令和3年度 田沢湖地方猟友会クレー射撃大会

8月14日、田沢湖クレー射撃場で令和3年度田沢湖地方猟友会クレー射撃大会が開催され、出場した16人が射撃の腕を競いました。

結果 (敬称略) ※同点の場合の順位は、年齢の上の選手が上位になります。

優勝	小林克己 (生保内)	25点	第4位	崔竜根 (神代)	21点
準優勝	田口和広 (生保内)	22点	第5位	真崎芳弘 (神代)	21点
第3位	大友勲夫 (生保内)	21点	第6位	高田君雄 (生保内)	18点

令和3年度 仙北市戦没者追悼式

8月5日、仙北市民会館において令和3年度仙北市戦没者追悼式が厳かに行われました。昨年と同様、検温やアルコール消毒など新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じての開催となりました。戦争で亡くなられたご英霊のご冥福を祈りながら、参列者の皆さまより献花が行われました。戦後76年が経過し、ご遺族の高齢化が進む中、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継いでいく活動を続けていくことを誓いました。



不戦の誓いを新たにしました。

給食で大喜利 お題「カレー」

〈入っている食材〉鶏肉、かぼちゃ、たまねぎ、にんじん、ズッキーニ、なす、えだまめ

- ▼ 彼がカレーを食べて言った。「この華麗なカレー辛え〜」 荒木田根心さん(5年)
- ▼ 野菜カレー、ヘルシー最高!!4時間目から腹減るしー 渡辺来愛さん(5年)
- ▼ 給食センターの皆さんは、見事になすを使いこなす 草薙瞳さん(5年)
- ▼ なすの入ったおいしいカレー言いつつとなす 草薙夏音さん(5年)
- ▼ ミッキーにズッキーニ入りカレーを食べさせたら喜んで 草薙桜介さん(5年)
- ▼ ズッキーニのカレー食べて、野菜好きになりました 千葉校誠さん(6年)
- ▼ 豆入りカレー、仙北市以外ではまあめつたに食べられませんか 渡辺星乃さん(6年)
- ▼ 鶏肉や野菜のうま味が充分出ている。ごちそう 高村歩斗さん(6年)

学校給食のカレーはつまみっ!!特に仙北市は最高おっ!!今回は、入っている食材などで、大喜利に挑戦してもらいました。

おいしい顔ってどんな顔?



人気メニューにこの笑顔。

またうら

心豊かな教育文化のまち 《仙北市教育委員会だより》 第119号

仙北市子どもサミット ふるさとの未来を考えます

このほど、市内小・中学校の代表が2〜3人ずつ集まり、仙北市子どもサミットが開催されました。これは、子どもたちが、地域を支える一員としての自覚をもち、ふるさとのために主体的に活動しよう、毎年2回実施されています。

「地域の課題は何なのか」「SDG Sの目標と関連させて自分たちでいんなことできるか」を事前に各学校で話し合い、参加してもらいました。

サミットでは、中学校区ごとに意見交換が行われ、地域課題を解決するための方策が活発に出されました。仙北市が観光地であり、観光客に気持ちよく訪れてもらいたいことから、仙北市の豊かな自然環境を守るため

神代小学校 交通安全に気をつけます

このほど、神代小学校で、3年生を対象に自転車検定が行われました。これは自転車の運転技術や基本的な交通ルールが身に付いているかをみるためのものです。

校庭には特設コースが設けられ、自分の自転車で検定に臨みました。1本橋走行、ジクザク走行、8の字走行、でこぼこ道走行、直線走行からの停止、など様々なメニューに一人ひとりが挑戦しました。

小原康之介さん(3年)は、「25秒かけてゆっくり進む1本橋が難しかったが、集中して



直線走行からの停止。クリアできました!!

のクリーンアップを中学校区ごとに行動することを採択して閉会しました。

西明寺中学校の生徒会会長・吉田彩乃さん(3年)は、「生まれ育った場所がここだよかったと思えるような仙北市にしたい。クリーンアップを小学校と行い、コロナが収まったら観光客にたくさん訪れてもらいたい」と胸をほりました。

仙北市プライドをもった子どもたちが育っていると実感した子どもサミットでした。



将来の仙北市、日本を支えます。



60年以上も松木内中学校の生徒を見守っています。

わが校の自慢

松木内中学校のプチ自慢は校門です。これは昭和30年11月に建てられたものです。

門脇遥香さん(3年)は、「昭和という時代から建っていることに驚いた。風雪を堪え忍んで自分たちをずっと見守ってくれたことが外観から伺える。歴史が受け継がれていて、重厚感を感じている。自分の家族も同じ門を通り、毎日通っていたことを思うととても感慨深い」と話していました。

意識することで見えてくる風景が違ってきます。校門のもつ意味を感じさせてくれた自慢の一品でした。

令和3年度 第1回角館猟友会クレー射撃大会

8月1日、田沢湖クレー射撃場で令和3年度第1回角館猟友会クレー射撃大会が開催され、出場した18人が射撃の腕を競いました。

結果 (敬称略)

- 優勝 伊澤芳郎(外ノ山) 39点
- 準優勝 黒澤直三(山谷川崎) 36点
- 第3位 笹淵誠(表町) 36点



左から笹淵さん、伊澤さん、黒澤さん、角館猟友会の佐々木正巳会長。



この土地だからこそその美しさ

中山里沙

こんにちは、中山です。昨年9月1日に協力隊として着任し、ちょうど一年が経ちました。ひと通り季節が巡りましたが、秋田を初めて訪れたときの、自然の美しさに対する感動は今も変わっていません。

例えば、最も感じるのは「植物の瑞々しさ、色鮮やかさ」です。雨の角館で、黒堀にかかる椿の枝葉と、杉の太木に巻き付いた赤い蔦の葉の、目の覚めるような鮮やかな色合いです。また、玉川ダムへ向かう道で、両側のブナ森があまりに黄金色に輝いている光景がすくには信じられず、天国があるならこんな美しさではないかと思つたほどです。これは水が豊かだからでしょう。雨が降れば、山々の谷という谷から湧き上がる白い水蒸気はまさに雲が生まれるところで、空と山と大地が水でつながっている景色を目にすることができます。私の見てきた太平洋側の森は、日本海側より乾燥していて、葉は硬く、緑も深い色合いが多かったです。だから、こんなにも全体が潤いに満ちている森があるのかと驚きました。春の豊富な水量は冬の豪雪のお陰です。冬場の生活は大変で甘いものではないと知りましたが、晴れた青空から降る雪というのは、初

めて見ました。曇り空から降る雪しか知らず、そのとき雪は灰色です。青空を背景に落ちてくる雪はまっ白というより、青を映して澄みわたり、さらに情緒的です。またあるいは、雲の造形。秋田の空はすく繊密な、こまやかな雲が生まれる空です。それに高い層と低い層で違う種類の雲が重なって、陽を透かしているときなど綺麗で見入ってしまいます。太平洋側の雲も雄大ですが、造形はこちらに比べるとおおざっぱな印象でした。

この土地のよさは自然だけに留まらず、この場では書ききれませんが、旅行者の方や東京の友人たちなど、他の地域をよく知る人も秋田について私と同じような点で感動してくれました。日本はどこも美しく、自然が残っているところもたくさんあるけれど、この土地ならではの美しさ、その風土がもたらす文化や、育まれる人のやさしくて素朴な気質に惹かれている人はとても多いです。地元の人に「これが綺麗だ」「ここがよい」と伝えると、「そうかな」「そんなに綺麗かな」という反応をもらうこともあります。その度に堂々と言えます。ここは、本当に美しく豊かところです。